

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成17年8月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成17年7月分(平成17年7月4日~7月31日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	0.00	0		12	ヘルパンギーナ	436	1.45	4.46	↑
2	RSウイルス感染症	1	0.00			13	麻疹	2	0.01	0.15	
3	咽頭結膜熱	153	0.51	0.76	↘	14	流行性耳下腺炎	692	2.31	1.03	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	210	0.70	0.80	↘	15	急性出血性結膜炎	2	0.03	0.06	
5	感染性胃腸炎	981	3.27	3.28	↘	16	流行性角結膜炎	73	0.91	1.71	↘
6	水痘	349	1.16	1.17	↓	17	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	3,371	11.24	5.76	↗	18	無菌性髄膜炎	24	0.29	0.79	⇒
8	伝染性紅斑	67	0.22	0.36	↘	19	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	0.17	
9	突発性発疹	229	0.76	0.94	↘	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.01	
10	百日咳	16	0.05	0.02	↘	21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風疹	1	0.00	0.02		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↘	⇒
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

定点把握（月報）五類感染症

平成17年7月分（7月1日～7月31日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	43	1.59	2.30	◇	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	77	3.67	5.3	◇
23	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.44	0.59	◆	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	37	1.76	1.42	◇
24	尖圭コンジローマ	13	0.48	0.38	◇	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	12	0.57	0.40	◆
25	淋菌感染症	8	0.30	1.07		「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

水痘
ヘルパンギーナ

急減（6月720件 7月349件）
急増（6月136件 7月436件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

- 一類感染症 発生なし
- 二類感染症 5件発生【コレラ1件（広島市保健所管内）、細菌性赤痢3件（福山市保健所管内）腸チフス1件（福山市保健所管内）】
- 三類感染症 14件発生【腸管出血性大腸菌感染症 { O157 13件（備北地域保健所管内10件，尾三地域保健所管内1件，福山市保健所管内2件） O26 1件（東広島地域保健所管内） }】
- 四類感染症 5件発生【A型肝炎2件（広島市保健所管内1件，福山市保健所管内1件）レジオネラ症3件（広島市保健所管内）】
- 全数把握五類感染症 6件発生【B型肝炎1件（広島市保健所管内）、後天性免疫不全症候群3件（広島市保健所管内2件，呉市保健所管内1件）クロイツフェルト・ヤコブ病1件（呉市保健所管内）アメーバ赤痢1件（広島市保健所管内）】

3 一般情報

流行性耳腺炎

平成17年は、例年に比べ流行しており、引き続き注意が必要です。

- ・好発年齢... 3～6歳の幼児，学童に多い。
- ・好発時期... 冬から初夏にかけて増加する。
- ・病原体... ムンプスウイルス
- ・潜伏期間... 12～25日（通常は16～18日）
- ・感染経路... ムンプスウイルスは，ウイルスを含む唾液または咽頭分泌液の飛沫感染によりヒトのみに感染する。
唾液中のムンプスウイルスの排泄期間は，発症数日前から症状出現9日後までであるが，主な伝播可能期間は2日前から症状が出現後5日後頃までである。
- ・症状... 急に始まる唾液腺の有痛性腫脹，両耳下腺が最も多く腫脹する。顎下腺や舌下腺も腫脹する。唾液腺の腫脹は48時間以上持続する。
発熱は唾液腺腫脹前から出現し，唾液腺腫脹のピークまで持続。
3～10%に無菌性髄膜炎の合併。
- ・予防方法... 流行性耳腺炎は耳下腺腫脹前からウイルスを排泄していることや，不顕性感染者もウイルスを排泄していることから，流行をコントロールすることは困難である。
予防対策はムンプスワクチンが唯一の方法である。
- ・注意事項... 思春期以降の男性では25%に睾丸炎を，思春期以降の女性では30%に乳腺炎を合併する。
また妊婦が感染した場合には自然流産することがある。

ウエストナイル熱

1999年、米国ニューヨークで患者が報告されて以来、米国内で毎年流行している。

8月16日現在、米国では、患者が333名発生し、うち8名が死亡している。近年、カリフォルニア州等の西海岸でも流行しており、日本とは人的、物的な交流が盛んなことから、日本への侵入が懸念されている。

- ・好発年齢...脳炎型は高齢者に多く見られる。
- ・好発時期...夏期から初秋にかけて多く発生する。
- ・病原体...フラビウイルス科のウエストナイルウイルスで、日本脳炎ウイルスに類似のウイルスです。
- ・潜伏期間...2～14日（通常は2～6日）
- ・感染経路...自然界においては、蚊と鳥の感染サイクルが維持されており、ヒトはウエストナイル感染蚊に刺されたことにより感染する。
通常ヒトからヒトへの感染はない。
- ・症状...突然の発熱、頭痛、背部の痛み、筋肉痛、食欲不振などの症状がある。
約半数で発疹が胸部、背、上肢に認められる。通常症状は1週間以内で回復する。
脳炎は高齢者に多く見られ、重篤な症状を呈する。
- ・予防方法...ワクチンはなく、流行地域では蚊との接触を避けることが重要である。
蚊の活動期（夕方から夜明け）に屋外で過ごすことをなるべく避ける。
露出している皮膚への虫除け剤を使用する。
戸外に出るときはできるだけ長袖、長ズボンを着用する。
なお、米国などの流行地域を旅行される場合は、蚊との接触を避けるなどの注意が特に必要である。